

FPD (DR) を用いて確定診断を行った 球節脱臼

(株)益田大動物診療所

原知也、加藤圭介、山本哲也

嶋田浩紀、足立全、岸本昌也、加藤大介

(株)益田大動物診療所



症例

ホルスタイン種 去勢 7ヶ月齢

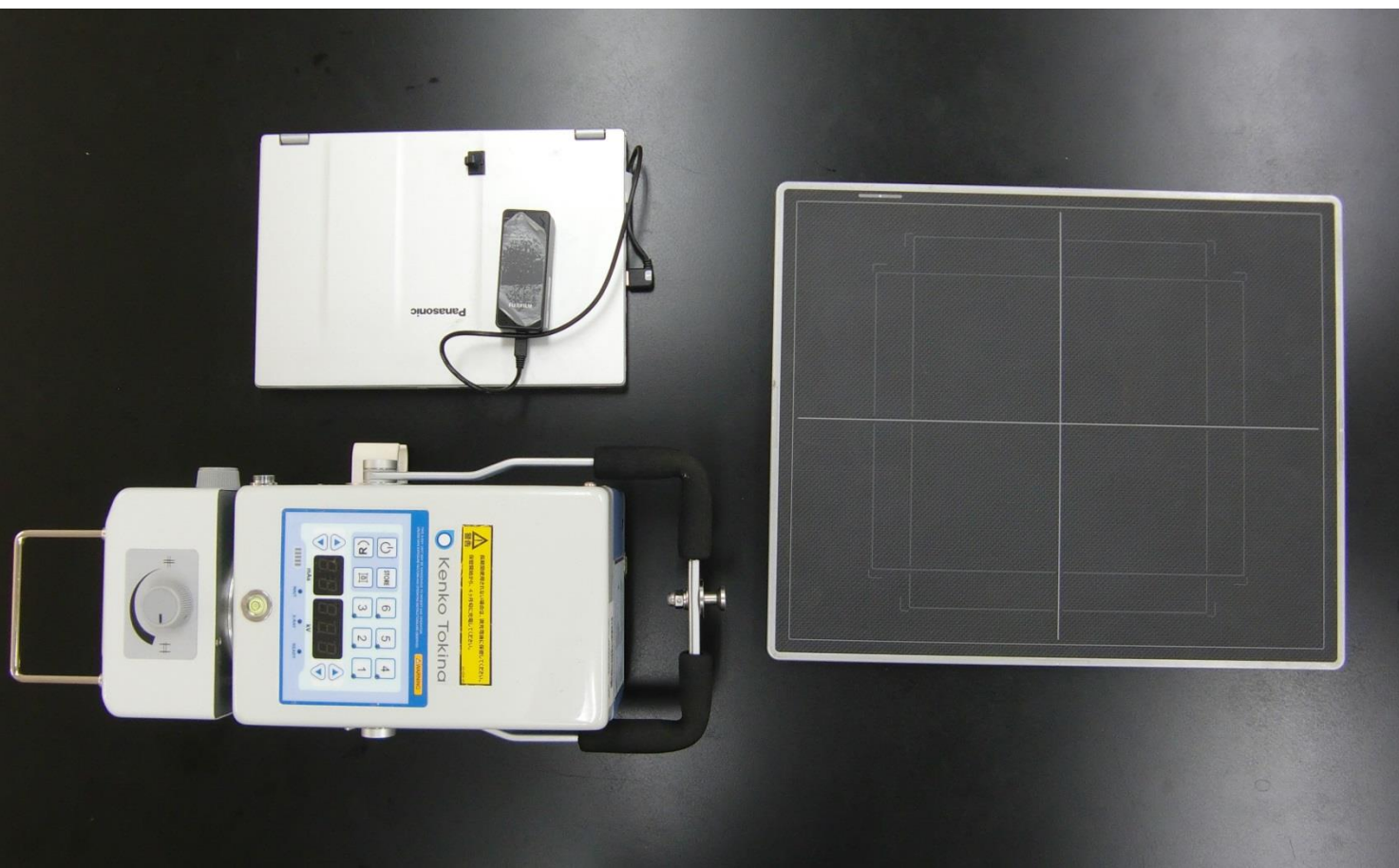
初診時症状

起立困難、重度の跛行、右前肢負重せず
右前肢球節腫脹、右前肢球節が内側に屈曲



方法

キシラジン鎮静下にて左側横臥にて保定し、FPD(Flat Panel Detector) (DR)にて罹患肢のX線画像診断



ポータブルX線撮影装置
PX-20BT(Kenko Tokina)

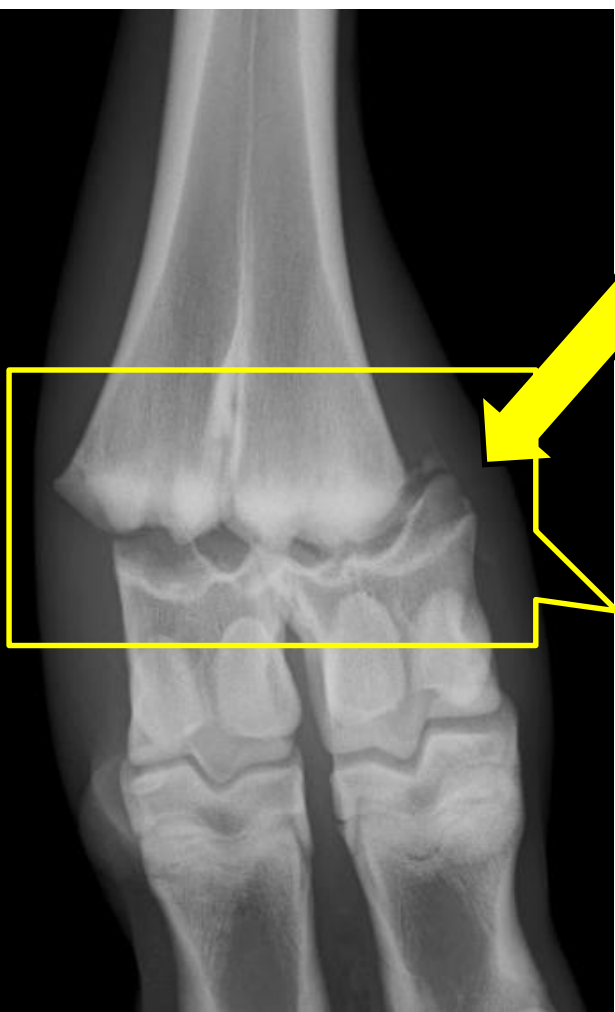
X線画像診断装置
DR-ID300(富士フィルム)



(株)益田大動物診療所

整復前X線写真(60kV 5.0mAs)

球節(中手指節関節)の脱臼
基節骨の剥離骨折



非観血的整復

球節遠位端にロープをかけ、用手にて牽引し、整復



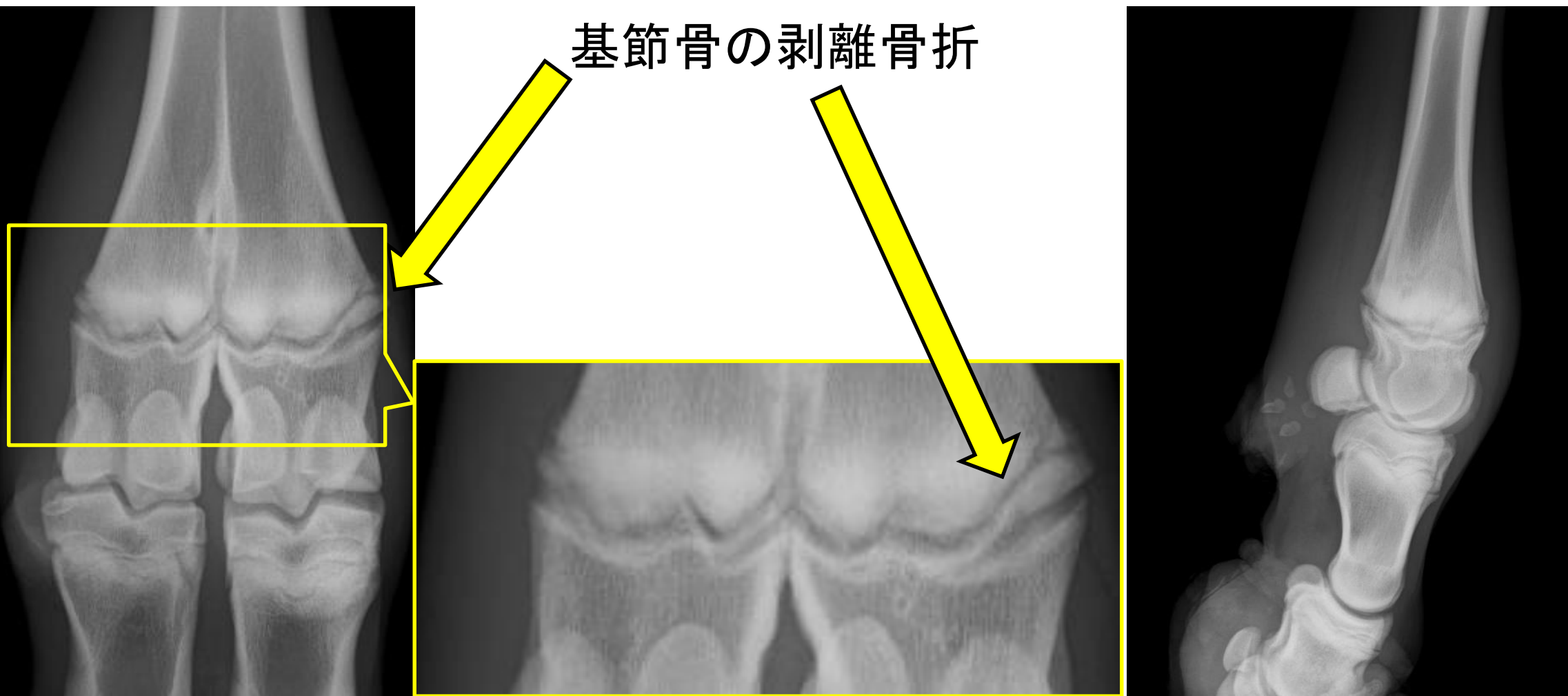
非観血的整復

整復が達成されると、**基節骨と中手骨が合わさる骨性の衝撃**が伝わった。

整復後、再度FPD(DR)にて罹患肢のX線撮影を行った。



整復後X線写真(60kV 5.0mAs)



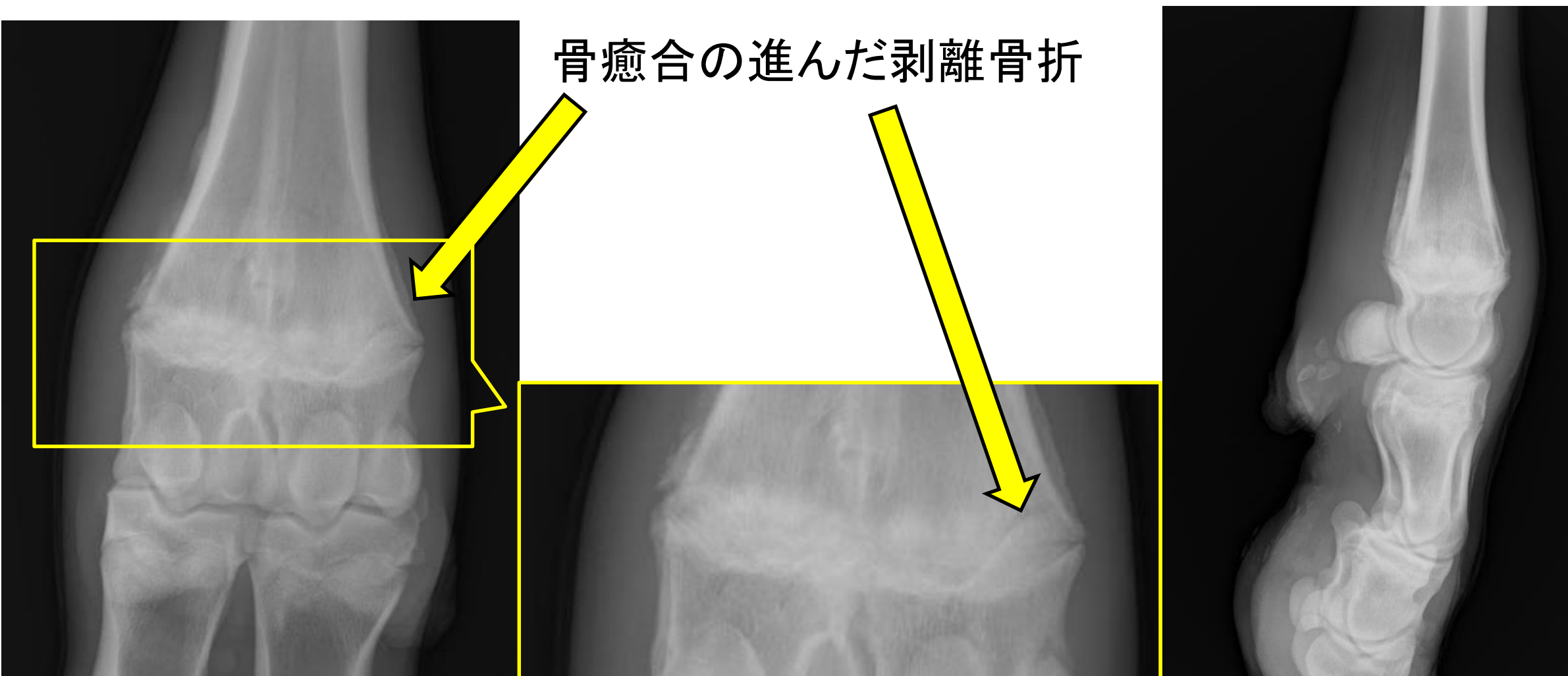
外固定



整復後、ギプスを用いて手根関節上部まで固定し、19日後にFPD(DR)を用いて再度、罹患肢のX線撮影を行い、骨癒合を確認し、ギプス除去した。



ギプス除去時X線写真(60kV 5.0mAs)



結果



ギプス除去直後



ギプス除去後7日目



考察(球節脱臼)

本症例は、2ヶ月が経過した現在も再発は見られず、順調に肥育中である。

発症後、状態が悪化する前に、**迅速かつ的確な診断と処置**が出来た。



考察(球節脱臼)

産業動物の獣医療において**運動器疾患の治療**は多い



跛行診断、触診等の診断に依存

本症例において**脱臼・骨折・腱断裂**の類症鑑別

病態の把握、適正な整復の確認、治癒判定



X線撮影による画像診断は欠かせない



考察(FPD)

ノートPCの画面上でレントゲン画像が観察可能

携帯性が良い

煩雑な現像処理・暗室不要

連続撮影が可能

撮影後直ちに画像を確認出来る

鮮明な画像



FPD(DR)は画像診断が容易、疾患に対する治療率を向上
FPD(DR)の利用は農場等が臨床現場となる産業動物獣医療において、迅速かつ的確な診断が可能となり、利用価値は極めて高い。

